

資料1

大島海洋国際高校の見直しの必要性と検討における議論の視点について

改編の経緯

大島南高校…水産業、漁業などにおける中堅人材を育成する学校

【課題】・海運業における合理化、EEZの設定による遠洋漁業の衰退

- ・教科「水産」の単位が最大で全体の34単位を占め、普通教科の学力向上が難しい
- ⇒海洋関係への就職者10.5%と低迷、海洋と関係の薄い進路選択をする生徒が増加

【都立大島南高等学校学科改編検討委員会報告書（平成17年6月）】

⇒「大島丸」「寮生活」「海洋」を舞台に『海を通し世界を知る』という観点の下、「海洋教育、全寮制、国際理解・国際交流、進路指導の充実」を組み合わせて、普通教科の充実を図り、国際社会に貢献できる人材を育成
大島海洋国際高等学校に名称変更するとともに、水産科から国際科に改編(平成18年4月1日～)

大島海洋国際高校の基本理念等

【取組のための基本的な考え方】

- ・海洋教育と全寮制を通した国際社会に貢献できる自律と責任感の育成
- ・実習船を活用した国際交流や留学生の受け入れによる国際的視野の醸成
- ・産学公地連携を通したグローバルな課題への挑戦
- ・日本人としてのアイデンティティの確立、世界に通用するコミュニケーション能力、英語教育の充実
- ・大学との連携及び四年制大学進学のための指導体制

学校像

- ①海洋教育と全寮制を通し、次代を担う国際感覚豊かな、たくましい人間を育成する学校
- ②「海を通し世界を知る」新しい海洋国際教育により、「人と文化の共生」「地球環境保全」「個性ある地域の創造」等の課題解決に貢献できる人材を育成する学校
- ③自国や地域の文化・歴史・伝統に対する深い理解と誇り及び他国の歴史・文化・伝統を理解し、これを尊重する態度を育成する学校
- ④4年制大学に塾や予備校に通わなくても、現役で進学できる指導体制を持つ学校
- ⑤東京海洋大学等との高大連携校として「学術アドバイザー制度」を設置し、最新の研究成果に基づく、質の高い教育内容を提供する学校
- ⑥環太平洋の国際交流の拠点として東京・大島と世界を結びつける役割を果たせる学校
- ⑦小中学生の心に「海へのあこがれ」を醸成し、将来の海洋の担い手の育成に寄与する学校

育てたい生徒像

- ①21世紀の国際社会の課題を把握し、これに貢献しようとする自律性、責任感のある高い志を持つ真の国際人としての生徒
- ②日本の歴史・文化・伝統に対する深い理解と誇りを持ち、他国の歴史・文化・伝統を尊重する態度を持つ生徒
- ③国際社会に通用するコミュニケーション能力をきちんと身に付けた生徒
- ④人間・社会・自然に対する探究心を持ち、より高度な学問に挑もうとする志を持つ意欲ある生徒
- ⑤グローバルな視点から地域社会の課題を発見し、これに積極的に関わる生徒

教育理念

- ①海洋教育・全寮制を通して、自然に対する「謙虚さ」「勇気・決断力」を養い、「誠実・礼節・協力」の精神を育て、国際社会に通用する自律した責任感ある人格を形成する。
- ②日本の歴史、文化、伝統に対する深い理解と誇りを持つとともに、多様な異文化を尊重する国際人としての姿勢・態度を育てる。
- ③コミュニケーション能力や英語力を培い、国際社会で活躍できる能力を育てる。
- ④確かな学力を身に付けさせ、自らの進路実現に向けて高い志を持ち、果敢に挑戦する態度・能力を育てる。
- ⑤グローバルな視点で常に地域や社会の課題をとらえ、その課題解決に向けて積極的に関わろうとする実践的態度を育てる。

これまでの検討状況

これまでの取組と実習船「大島丸」の状況

- ・校外教育施設「大島セミナーハウス」の移管を受け、学校隣接の寄宿舍「拓水寮」から寮を移転(平成19年4月～)
- ・学校独自の取組として、生徒の進学希望を実現するためのカリキュラムの工夫などを実施
⇒改編時のカリキュラムに対し、学校の現状を踏まえ、学校が独自にカリキュラムを工夫して実施

平成25年度 【島の高校における教育の充実に係る検討委員会(3回実施)】

- ・実習船「大島丸」の高船齢化(平成8年3月竣工後17年を経過)や、旧セミナーハウス寮の老朽化(築37年)などを背景に、大島海洋国際高校の充実について検討を開始
⇒類型の見直しと大学進学を目指した教育の充実などを検討

平成26～27年度 【大島海洋国際高校における海洋国際教育検討委員会(3回実施)】

- ・平成25年度の検討結果を踏まえ、海洋国際教育の一層の充実化を目的に検討
⇒実習船を活用した新たな海洋教育の受託事業者案
⇒実習船の規模や運航方法等の受託事業者案
⇒海洋国際教育の充実化に向けた委員会提言(受託者案導入の検討、実習船コンセプト見直し、学力向上の取組検討など)

平成28年度 【海洋国際教育の充実に向けた検討委員会(3回実施)】

- ・平成27年度までの検討を踏まえ、特色ある実践的な教育活動内容の具体を検討
⇒船舶管理体制の強化の検討(陸上からの運航管理や支援による安全・安心な運航体制)
⇒大島丸の代船建造に関する検討(航海実習の内容に加え、新たな海洋教育の取入れについては継続して検討)
⇒学力向上策を充実(今後、更に検討が必要)
⇒教育課程の適正化、船員の体制などについて今後も検討

多くの検討事項について、社会的要請を踏まえつつ解決していく必要

成果を検証し、社会的背景や生徒・保護者のニーズを踏まえて
学校の在り方から抜本的な改革を実施する必要

検討における議論の視点

- 1、社会的背景や生徒、保護者ニーズ、成果検証等について確認
 - ・国の動向、社会的状況、都の施策との関係、都立高校として実施すべき内容の整理など
- 2、基本的理念等の検証と見直し、明確な進路像の設定など
 - ・1の状況を踏まえ、生徒のキャリア像を明確にした上で、基本的理念等を検証
- 3、昨年度までの検討及び1、2を踏まえた上で
 - ・基本的理念等を達成するための学校の仕組みの検討
 - ・教育内容、特色ある教育活動(実習船、寄宿舍、行事)などの教育に関する見直し
 - ・教育を支える教育諸条件の検討(教職員や外部人材などの教育スタッフ像と確保・育成策の検討、系統的な進路指導の実施方針、基本的理念等をかなえる施設・設備の在り方、適切な学校運営に向けた体制方針、入学者選抜の基本的な方針など)